

「天の故郷を目指して」(要旨)

聖書箇所：ヘブル 11:13-16

【1】 走り切った信仰の証人たち

ヘブル人への手紙 11 章は、信仰に生きた旧約時代の人々を紹介しています。アベル(4)から始まり、エノク(5)、ノア(7)、アブラハム(8-)、イサク(20)、ヤコブ(21)、ヨセフ(22)、モーセ(23-)、ラハブ(31)、ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル、そして預言者たち(32-)。彼ら一人一人の生涯について、私たちは聖書を読んで実際に確認することができます。彼らは完全無欠な信仰者ではありませんでした。しかし「…信仰の人として死にました」(13)と、彼らが生涯を通じて信仰のレースを走り切ったと聖書は伝えます。

信仰者はゴールを目指すランナーのように、信仰のレースを走り続けるのです。

【2】 彼らの背中を見て走る

私たちは信仰のレースを走り始めたものの、自分の願ったような道でなかったのが引き返そう、という思いに駆られることがあります。信仰のレースを走り続けることはたやすいことではありません。走り続ける秘訣は何でしょう。願ったものをその通りに手に入れることでしょうか。期待通りにことが進むことでしょうか。それらがモチベーションを保ち、走り続ける原動力となるのでしょうか。ヘブル 11 章で信仰の証人たちが紹介されたのは、私たちを励ますためでした。「こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか」(12:1)。

聖書は私たちに、信仰の証人たちに目を向

けるよう勧めています。彼らは地上では「約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるか遠くにそれを見て喜び迎え」(11:13)た信仰者でした。私たちはこうした証人たちの背中を見て、自分のレースを走り続けるのです。

【3】 約束してくださったのは真実な方

信仰の証人たちが、約束のものを手に入れることができなくても、「はるか遠くにそれを見て喜び迎え」ることができるのはなぜでしょうか。それは、約束してくださった方を真実な方と信頼していたからです(参照:イザヤ40:30-31)。彼らは自分の一生というタイムスパンで物事の良し悪しを評価するのではなく、真実な神を信頼し、自分の前に置かれた競争を走り切りました。今、私たちは知っています。神が、信仰に生きた旧約時代の人々に与えた約束を確かに実現されたことを。

私たちは、召天者を偲び集まりました。納骨堂の銘板に刻まれた故人の愛唱聖句を確認してください。一つ一つに、神の愛、あわれみ、そして真実が現れています。私たちも、真実な方である神に信頼し、天の故郷を目指して走り続けようではありませんか。

